

ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた作戦安値107円水準を下回り105円台に突入しました。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性など

ドル/円相場のトレード戦略

といったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、ドルの大きなリバウンドも期待しにくい状況となっています。

本年はレンジ相場が続くという見方に変化はないものの、想定レンジを 100 円～115 円程度に下方修正する必要があるようです。

また、昨年から続いてきた三角持合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は 109 円水準が戻りのめどとなりそうです。

■短期展望

先週は、104 円台後半でスタートした後、ドルは買い戻しが強まる動きとなりました。

米中の貿易摩擦懸念の後退や月末に伴うポジション調整の流れがドルを押し上げました。

また、週中には米朝首脳会談の開催を模索しているとの報道を受けリスクオンムードが広がり一時 107 円 01 銭の高値を付けましたが、週末には 106 円台前半まで押し戻されて週を越えています。

今週は、米国の金融政策に影響を与えそうな経済指標も多く、また FRB 高官の講演も多数予定されており、その内容を見極めたいところです。

ただし、長らく積み上がっていた CME の円ショートポジションが先週ほぼ解消されており、一段の円高リスクはやや後退しているものと思われます。

したがって、105 円半ばから 107 円をコアレンジと想定し、イベントの結果を織り込んでいくことが必要と思われます。